優秀賞

# ぼくだってできる

小中野小学校（八戸市）
一年　丸谷瑛一（まるやえいいち）

「もうちょっとおおきくなってからね。」
いつも、だいたいそういわれてやらせてもらえない。きょうのおこめとぎもだ。そういうとき、やりたいなあとしょんぼりする。ぼくだってやれるのに。
あるひ、ぼくのじゅんばんがきた。ママに
「おこめといでみる。」
とさそわれた。うれしかった。げんきよく
「うん。」
といった。
まず、ぼうるにおこめをいれた。カップで二はいいれた。そのあと、みずをいれた。てでおこめをしたからすくって、おして、しろいみずがでてきた。ぼくは、ママやパパがおこめをとぐのをみていたから、やりかたをしっている。
「おこめがみずをすっちゃうから、じかんとのしょうぶ。てばやくとぐのがコツ。」
ママからおしえてもらった。おこめをてでおすとジャッジャッ、みずのおとがジャブジャブ、きもちがいいおとだ。しろいみずをながして、あたらしみずをなんかいかかえて、おかまにいれた。よそみをして、おこめをこぼさないようにちゅういした。そのあとみずのりょうをみて、こおりをいれる。パパからおしえてもらったコツだ。あしたのあさ、おいしくたきあがっているか、たのしみなきぶんでスイッチをおした。
つぎのひ、おこめはごはんにへんしんしていた。しろくてふっくら、ゆげがほかほか、とてもいいにおいがした。
「えいちゃんがといだごはん、おいしいね。」
とみんながいってくれた。ぼくもじぶんがといだから、いつもよりおいしかった。だいすきななっとうをたべるのをわすれるくらいおいしかった。ぼくだってできるんだ。こんどはおべんとうをつくってみようかな。

優秀賞

# お母さんのねがお

合浦小学校（青森市）
三年　賀山絢音（かやまあやね）

「わあ、ポムポムプリンだ。」
わたしと弟は、お母さんが作ったオムライスを食べました。白がまざっている黄色のオムライスはポムポムプリンの形をしていました。一口食べようとすると、あまいたまごのにおいがしました。
「いただきます。」
食べてみると、あつあつでびっくりしました。
　このオムライスはおべんとうばこに入っていたごはんです。この日、わたしはいとこの家に行こうとしていましたが、いとこがかぜをひき、行くことができませんでした。
「ああ、ひまだな。」
とわたしが言うと、
「ピクニックするよ。おべんとうを食べよう。」
とお母さんが言いました。
　おべんとうをお母さんが作る前に、わたしとお母さんはせっけい図をかきました。
「こうすると、おいしそうに見えるね。」
と、二人でどこに何を入れるかアイディアを出し合いました。
「このおべんとうばこがいいんじゃない。」
二人は、べんとうばこにもこだわりました。
　せっけい図を作っていたから、だいたい何が入っているかわかっていたけれど、おべんとうばこをあけてみると、はじめて見たような気もちになって、わくわくしました。
「ふかふかのオムライス、おいしかった。」
わたしが、お母さんにそう言うと、お母さんはねむっていました。お母さんの顔を見て、
「かわいいな。」
と思わず言ってしまいました。なぜなら、お母さんがしあわせそうな顔をしていたからです。わたしたちが、「おいしい。」と言いながら食べていることを知っているかのような顔でした。わたしはお母さんのねがおにむかってこう言いました。
「おいしかった。ありがとう。」

優秀賞

# おなべでたくお米

小中野小学校（八戸市）
三年　丸谷（まるや）　鈴（すず）

大へんです。ある日、家のすいはんきがこわれてしまいました。夜ごはんはどうするんだろうと思っていたら、母がおなべでごはんをたくと言いました。

「おなべでもお米はたけるの。」

思わず聞いてしまいました。母は、

「そうだよ。昔はすいはんきがなかったからおなべでたいていたんだよ。」

と教えてくれました。私はしんじられませんでした。

そこで、おなべにかけたお米をじっと見てみました。いつもどおりといだお米をおなべに入れました。中火にかけてしばらくすると、にじ色のあわが出て、いつものごはんのたけるにおいがしてきました。よだれが出そうでした。弱火にして、十三分くらいまちました。だんだん水が少なくなっていきました。さいしょは小さくてかたいお米が、水をすってふくらんでたけるようすがよく分かりました。いつものすいはんきだと、スイッチをおすだけでかんたんですが、こうやってお米がたけるようすを見ていると、食べるのがますます楽しみになりました。火を止めるころには、こうばしいようなにおいがしてきました。

やっとたけたと思ったら、むらす時間が大事、と言われ、その間にお茶わんをじゅんびしました。ふたを開けたら、おなべからとびだすくらいのゆ気が出て、お茶わんにいっぱいもりました。やっと食べられたごはんは、色はいつもよりキラキラ光っているように見えました。一口食べてみると、かたさもちょうどよくておいしかったです。

ずっと見ていて、お米のへん化していくのを見ているのはとても楽しかったです。そして、昔の人は何でも工夫してくらしてきたんだなあと思いました。だから私も、たきたてのおいしいごはんを作ってくれた母のように、毎日工夫してすごしていきたいです。

優秀賞

# おにぎりがあったか

三条小学校（八戸市）
三年　澤上（さわかみ）　葵（あおい）

夏休み中、ぼくにとってひさしぶりの新人せんがあった。ぼくは一年生のころからやきゅうのチームに入っている。

しあい前、ぼくは、とてもきんちょうして、手がふるえていた。「しあいに出れるやったあ。でも、ぼくが出てだいじょうぶかな。どうしよう。」そうかんがえているうちに、しあい前のけいしょくのじかんになった。そういえば、朝、母が台所でにぎっていたな・・・。母のすがたを思い出しながらぼくはおにぎりを一口食べた。こんぶがはいっていて、きれいな丸ではなかったがとてもおいしかった。それから何口か食べると、なぜかふしぎときんちょうがなくなり力が出てきた。「やきゅうがんばってるあおいかっこいいよ。がんばってね。」いつも母が言っている言葉がうかんできた。そしてしあいになった。母のおにぎりの力でしあい中は大きな声を出し、今までのれんしゅうのせいかを出し、せいいっぱいがんばることができた。スタンドを見ると、手をたたいてよろこんでいる母のすがたがあった。

家に帰り、「おにぎりおいしかったよ。おにぎり食べたら、何かパワーが出てきたんだよ。」とつたえると、「よかった。お母さんね、あおいがんばれってねがいながらギュッてにぎったの。お母さんの思いがつたわってよかった。がんばったね。」と言ってくれた。

ぼくにとっておにぎりは、お母さんのきもちがこもった大切なものだ。くじけそうなときに、パワーをくれる、あいじょうこもったおにぎり。ぼくはこれからもおかあさんのおにぎりをたべ、やきゅうをせいいっぱいがんばろうと思う。お母さん、おいしいおにぎりいつもありがとう。

優秀賞

# ママのえがお大作せん

合浦小学校（青森市）
三年　浅野琴冬（あさのことと）

わたしのママは、いつもわたしやお兄ちゃんにごはんを作ってくれます。わたしは、いそがしいママがよろこぶことをしたいと考えました。さいしょはおかずを作ろうと思ったけれど、

「わたし一人では作れない。」

とあきらめました。そこで、わたしはママにおにぎりを作ることにしました。おにぎりなら作ることができると思ったからです。

「おじいちゃんとおばあちゃんとお兄ちゃんにも作るぞ。」

わたしははりきってみんなの分を作ることにしました。

まず、ごはんをよういしました。

「おにぎりのぐはなににしようかな。」

と、わたしはママの顔をおもいうかべました。ママはのりたまのふりかけがすきなので、のりたまのふりかけをよういしました。このふりかけをごはんぜんぶにしみこませるようにまぜました。すると、白と黄色とのりの黒がまざっておいしそうになりました。

わたしは、サランラップをじゅんびしておにぎりをにぎりました。そのあと、あじのちょうせいをするためにちょっとだけあじしおをふりかけました。ママがよろこぶ顔をそうぞうして作ったら、なんこもなんこも作れました。

わたしは、

「ママ、プレゼント。」

と言って、家に帰ってきたママにおにぎりをわたしました。すると、

「これ、ことが作ったの。」

とびっくりして聞いてきました。ママは、

「おいしいね。どうやって作ったの。」

と食べながら、にこにこしていいました。

「ママ。このえがおが見たかったの。」

とわたしは言いました。わたしのえがお大作せんは大せいこうでした。